



『天城学習』の意義 ～天城学習発表会を終えて～

校長 守野和弘

「私にとって、天城学習で体験したり学んだりしたことが自分の将来像や生き方に大きく影響している。1,2年生の時には自然体験として八丁池や万二郎・万三郎岳に登った。その自然の美しさに、伊豆や天城に誇りをもち、大好きになった。学びを深める中で伊豆や天城の課題にも直面し、3年生の時には解決のヒントを求め、伊豆市役所都市計画課を訪問もした。

故郷を離れ、東京での大学4年間、伊豆市や伊豆半島に関わる仕事がしたいと強く思うようになった。来春からは教職ではないが、静岡県で働く。今の夢は、その仕事を通して伊豆半島の活性化に携わることである。3年間の天城学習は、自分の故郷について考えるととても貴重ですばらしい機会である。今、皆さんがやっている天城学習での学びは、ここで終わるものではなく、きっと将来の自分に生きるはずである。」



これは10月17日から3週間、教育実習生として来ていた本校の卒業生、堀江渚沙さんに天城学習について書いてもらった文章です。決して都会にはない伊豆や天城の自然や文化の豊かさ、さらにそのよさを生かした生産業、観光業等、多くのひと・もの・ことに触れたこと、また過疎化やシカの食害、観光等に課題をもち、その解決や活性化のためにどうしたらよいかについて専門家にインタビューし、自分たちの考えをまとめ、天城学習発表会で多くの方々に聞いていただいたこと、さらに他の生徒の多様な解決策を聞いたことなどで、堀江さんは『何か』を得ました。

さて、今年は3年ぶりに全員が発表する天城学習発表会でした。一人一人が相手意識をもって発表した姿勢がすばらしかったです。特に3年生は、観光客のリピーターを増やすためのスイーツ作りにチャレンジし、プロに助言をいただき改良したり、天城の名所パンフレットを作成して道の駅に置いていただいたりするなど、行動化したことがすばらしかったです。

パネルディスカッションの中で、里山で自然農法の農業を営まれている浅田藤二さんからは「人には価値がないと思うものが、宝に見えてくる。」言い換えるなら「天城にはすごいポテンシャルがある。」ということばをいただきました。また、コーディネーターとして参加していただいた地域おこし協力隊の佐藤亜弥さんからは、「今までと違う視点で物事を見る。それが地域の人を変えていく。」ということばをいただきました。

そういう『目』を持つことこそが天城学習の意義であり、その『目』を持つことによって、先輩の堀江さんのように何かを始めようとするのだと思います。

天城学習発表会

11月10日(木)「天城学習発表会」が本校の体育館で開催されました。4月から、1年生は「福祉学習」2年生は「防災学習」「職場体験」3年生は「地域学習」について学習してきました。当日は、天城小学校5年生も参観し、1・2年生の発表に興味津々の様子で聞き入っていました。学校評議委員、多くの保護者に来校いただきありがとうございました。伊豆市長からの講評では「中学生への大きな期待と、将来の天城を決めるのは主権者の皆さんである」と熱いエールをいただきました。



ふるさと伊豆・天城がいつまでも素晴らしいふるさとであるためにはどうしていったらよいか

いつまでもすばらしい故郷であるためには、人口の増加が必要だと思います。でも、人口増加のためには、仕事や住みやすい町にすることが必要です。そして、発展のためにはお金や知名度が必要だと考えます。そのために、まずは魅力を発信していくことで観光客が増え、地域の経済が活性化し、さまざまな発展ができると思います。



そして、発展した時に、さらに魅力を発信したり住みやすくするには地元の人々の協力が必要です。そのために地元の良さを地元の人が、まずは自覚していくことが必要だと思います。(3年生)

たくさんの人の伊豆に対するそれぞれの考えを聞いて、30年後もすばらしい天城であるために、まずは地元の人が天城について知り、天城を愛し、そしてまわりに伝えることが大切だと思います。正直、私はこれからもずっと天城に住み続けたいというわけではなく、都市に出て働きたいという気持ちの方が大きいです。しかし、パネリストの方が1度天城を離れることも大切で、それによって分かることもあるとおっしゃっていて、それでもいいんだと気づくことができました。天城学習を通して、天城の改善点はたくさんあるけど、それ以上に私たちが気づいていないだけで、魅力は多いんだと分かりました。これから、天城を知ろうという姿勢を大切に生活していきたいです。(3年生)

私は、パネリストとして舞台上で話し合っ、私の意見は「天城の魅力を残しつつ、自然整備をしていく」というもので、どちらかというと「今」ではなく「未来」を見ていたんだと感じました。パネルディスカッションで出た「天城の魅力を自分たちが知る、自分たちが知る」という意見はとても納得しました。具体的なことを3年生の発表で「魅力度ランキング22位」ということを聞いてびっくりしました。それは、私以外もそうだったと思います。それだけ天城の魅力に気づいていないのです。いつまでも天城がすばらしい故郷であるためには、まずは自分たちが変わらないといけません。頑張りたいです。(2年生)



私は、恥ずかしながら「伊豆・天城」のことを今までよく知らず、普通に「いなか」というイメージでした。しかし、天城学習を通してその考えが変わりました。「伊豆・天城」には、とてもたくさんの良さがあり、その反面いくつかの改善点があるということに改めて気づかされました。良いところはそのまま受け継ぎ、改善点を私たちが考え、実行していけたらとよい私は考えます。天城学習でたくさん体験できたこと、本当に嬉しく思います。ありがとうございました。(1年生)